

留萌市商店街振興組合連合会

機関名	留萌市商店街振興組合連合会			
所在地	北海道留萌市栄町3丁目3番10号			
電話番号	0164-43-5911			
地域概要	(1)管内人口	30千人	(2)管内商店街数	商店街
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数	5商店街	(2)会員数	154商店
	(3)空き店舗率	13%	(4)大型店空き店舗数	0店
商店街の類型	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街			

【事業名と実施年度】

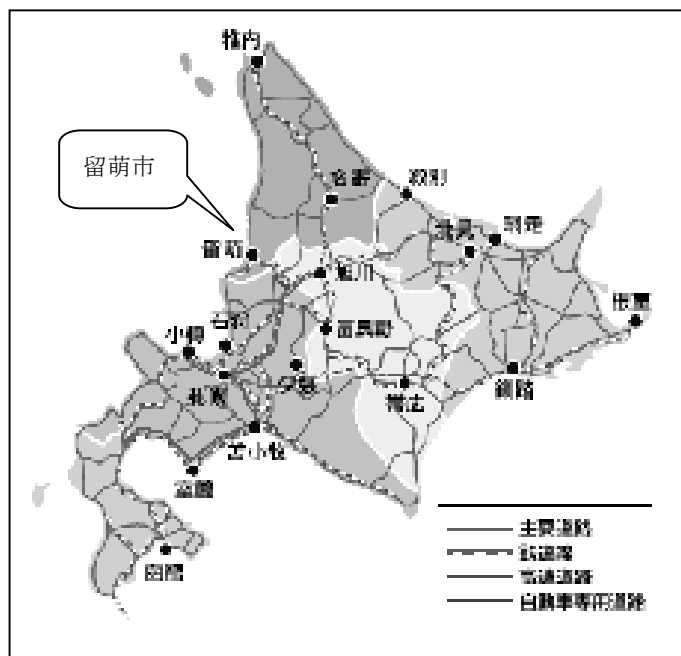
平成15年度	空き店舗対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジショップ開設 ・カルチャー教室開催、まちかどギャラリー等の開催 ・まちの休み所開設
	総事業費	6,012千円

【事業実施内容】

1. 背景

留萌市は、北海道西北部における留萌支庁管内の中心都市であり、水産加工が基幹産業となっている。市の中心部は商店街によって形成され、南部には官公庁、学校、住宅地が広がっている。

同市の商店街を取り巻く環境は、羽幌線の廃止、減船などの社会的要因や少子高齢化による商圏人口の減少、また、モータリゼーションの進展、都市間アクセス道路の整備及び郊外への大型店出店の影響により、中心市街地内の大型店の撤退や個店の転廃業が目立っている。中心市街地内には市内小売店舗の約半数の180店舗が立地しており、歴史的にまちが形成されてきた地域であるが、空き地、空き店舗が増加し疲弊してきている。



留萌市の位置（北海道 HP より）

こうした状況下、留萌市商店街振興組合連合会は、空き店舗を自らの行動と創意工夫に

より有効活用し、市民が訪れる環境を創出し、賑わいをもった「まちの顔」として再生するために、以下の事業に取り組むこととした。

2. 事業内容

中心市街地商店街の空き店舗を交流拠点として活用し、チャレンジショップ開設、イベント開催、休憩スペースの設置等を内容とする事業を実施することにより来街者への利便性の提供及び来街の動機付けを行い、もって中心市街地商店街の集客力の向上、郊外大型店との差別化を目指し、魅力ある中心市街地の再構築を図ることを目的として、以下の事業を実施した。

(1) 施設名称

- ・あずまし屋3番街（留萌市錦町3丁目）
面積：116㎡
- ・あずまし屋だるま店（留萌市開運町1丁目）
面積：214㎡

(2) 実施体制

留萌市商業環境再生委員会（市民生活向上のための中心商業地域を再生する会）

事務局：留萌市商店街振興組合連合会



あずまし屋 だるま店

- ### (3) 事業実施期間：平成15年7月26日（土）～ 16年2月27日（金）

(4) 実施事業

①チャレンジショップ開設

1) あずまし屋3番街

期間：平成15年7月26日～16年1月31日

出店者：・るもい手作り女性グループネットワーク「ぬくもり」による陶芸作品、ドライフラワー等カントリー雑貨、ビーズアクセサリー、農産物加工品等の販売。

・フットサロン「中国足心道」によるフットマッサージの実施。

2) あずまし屋だるま店

期間：平成15年7月26日～15年12月31日

出店者：・「ふれあいの家」：朝もぎ野菜の即売会

・「ダイワ食品」：ジェラードアイス、デンマークドック等の軽食販売

・「伊万里屋」食器類、絵画、花瓶等のリサイクルショップ

②カルチャー教室の開催

あずまし屋だるま店において、布製品づくり教室、リース作り教室、陶芸教室、パソコン教室などを開催した。

③まちかどインフォメーション

あずまし屋だるま店にパソコンブースを設置し、インターネットやホームページによる情報を提供した。

④共同イベントの開催

- ・商店街各所において市内の幼稚園及び保育園児達によるフラワーガーデン作り
- ・小学校低学年から大人までの年齢層の市民参加によるハイパーホッケー大会
- ・日用品、各種贈答品、着物等の衣類等のフリーマーケット
- ・あずまし屋3番街において、手作りリースやポップ等で店内を飾り全商品を2割引きで販売するチャレンジハウス感謝祭

⑤まちかどギャラリーの開催

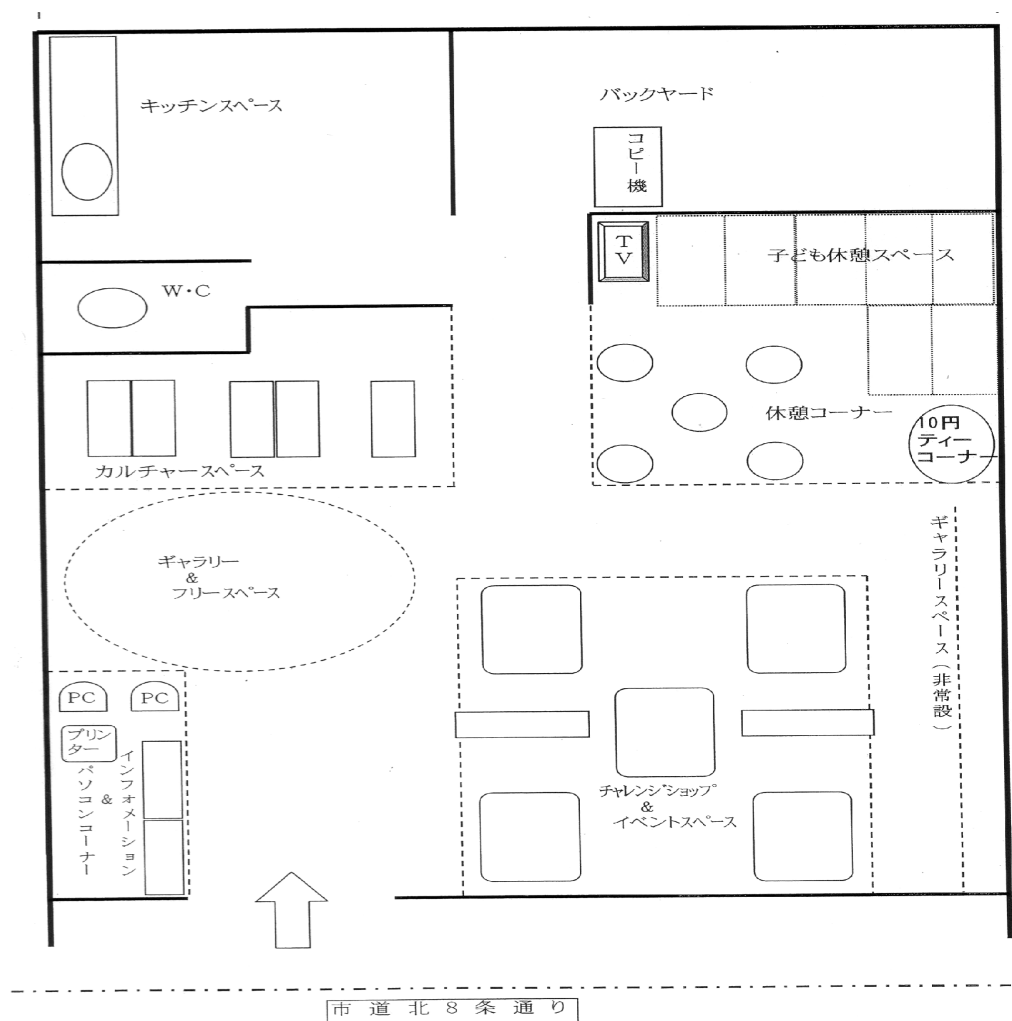
あずまし屋だるま店にギャラリースペースを設け絵画展、陶芸展、電子機器展示会を開催した。

⑥まちの休み所開設

あずまし屋3番街、あずまし屋だるま店の両店において飲食サービスを行い、大型テレビやトイレ、読み物、子供休憩スペース、囲碁・将棋コーナー等を配置した気軽に立ち寄れる休憩コーナーを常設した。



カルチャー教室



あずまし屋 だるま店 店内レイアウト

【 効 果 】

中心市街地商店街の集客力向上及び個店の販売促進はもとより来街者への利便性の提供、郊外大型店との差別化等、多岐にわたる事業効果を実現することができた。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

チャレンジショップ開設については、出店者募集の際のPR不足、趣旨の説明不足、また、期間終了後のアフターケア不足があった。カルチャー教室の開催については、市内にさまざまなサークルや趣味の団体・同行会等が多数あるだけに、もっと幅広い年齢層の受講が見込まれる多彩な教室開催ができたのでは、という反省がある。共同イベント開催及びまちかどギャラリーについては、ともにPR不足の感があった。